

第 11 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
議事要旨

1. 日時：平成 28 年 2 月 23 日（火）10:00～12:00
2. 場所：国立情報学研究所 12 階会議室
3. 出席者：

（委員館）

久留島館長，尾城事務部長（以上，東京大学附属図書館），江川副館長（以上，筑波大学附属図書館），白石センター長，宮部学務・教務部学術情報課長（以上，横浜市立大学学術情報センター），深澤館長，荘司事務部長（以上，早稲田大学図書館），赤木所長，風間事務長（以上，慶應義塾大学メディアセンター本部），喜連川所長，漆谷学術基盤推進部長，酒井学術基盤推進部次長（以上，国立情報学研究所），

（陪席）

佐藤教授・これからの学術情報システム構築検討委員会委員長（東北学院大学），富田事務部長・機関リポジトリ推進委員会委員長（北海道大学附属図書館），松本学術基盤整備室室長補佐，菅原学術基盤整備室大学図書館係長，永友学術基盤整備室大学図書館係員（以上，文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付），木下総務課長，熊淵情報管理課長（以上，東京大学附属図書館），北村情報管理課長（筑波大学附属図書館），本間総務課長（早稲田大学図書館），関課長，岡野主任（慶應義塾大学メディアセンター本部），岩田総務部長，坂本学術基盤課長，大向准教授，細川学術コンテンツ課長，小陳図書館連携・協力室長，高橋学術コンテンツ課副課長，吉田学術コンテンツ課支援チーム係長，服部学術コンテンツ課支援チーム係長，上村学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，齊藤学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，片岡学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，前田学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長（以上，国立情報学研究所）

4. 議事：

（報告事項）

- （1）前回議事要旨案について

慶應義塾大学・赤木委員長より，前回議事要旨は既に確定済みである旨の確認があった。

(審議事項)

(2) 協定書の継続および協定書・要綱の改訂について

NII・高橋副課長より、資料 2-1 から 2-3 に基づき説明があり、承認された。

(報告・審議事項)

(3) 機関リポジトリ推進委員会の活動について

北海道大学・富田部長より資料 3-1 から 3-3 に基づいて報告及び説明があり、次期活動計画及び次期委員について承認された。

(審議事項)

(4) リポジトリ推進協会の設立について

筑波大学・江川副館長より資料 4-1 から 4-8 に基づいて説明があり、以下の意見交換の結果、設立計画、スケジュール共に承認された。

- 「知の発信」において、機関にはその保有する情報を保存・公開する責任がある、という点を明確にするなら「機関リポジトリ推進協会」という名称も考えられる。「機関リポジトリ」ではなく「リポジトリ」にした理由は何か？
 - 「機関リポジトリ」はもちろんのこと、それ以外の特定分野に関するリポジトリの参加も想定していた。
- 具体的なメリットは何か？
 - 人材育成（研修）、最新動向共有や国際連携といった点が挙げられるが、最大のメリットは JAIRO Cloud の共同運営である。
 - JAIRO Cloud 非参加機関でも「リポジトリ推進協会」に何らかの形で関与することで、今後の改善への協議に加わることもできる。
- JAIRO Cloud 参加機関は必然的に協会にも参加しなければならないことを理解した。共同運営とあるが、JAIRO Cloud の今後の開発については、NII と「リポジトリ推進協会」とどちらに比重が置かれるのか。事務局はどうなるのか。
 - 事務局は NII に設置する。NII と協会でも議論しながら、JAIRO Cloud の将来計画を決めていく。既構築機関でも、JAIRO Cloud の運用に関心のある機関にはぜひ参加してほしい。
 - JAIRO Cloud は、これまで NII がサービスを企画・提供してきたが、これからは「リポジトリ推進協会」が中心になって、リポジトリをどうしていくかコミュニティ全体で考えていく方向へシフトしていくことになり、長期的に見ると健全な流れである。会費についてもコミュニティの運営に一定の緊張感を保つためにも必要ではあるが、その一方で経費削

減のための工夫についても今後、検討する必要があるだろう。

(報告・審議事項)

(5) これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について

東北学院大学・佐藤教授より、資料 5-1 から資料 5-4 に基づいて説明があり、次の意見交換の後、次期活動計画、次期委員および NACSIS-CAT の再構築の方向性について承認された。

- 書誌レコードの階層構造の変更については、今後発生する書誌だけではなく、これまでの書誌レコードも遡及的に変更するのか？
 - 過去分の書誌レコードも遡及的に階層構造を変更する必要がある。
NACSIS-CAT 全体のサイズはそれほど大きなものではないが、効率的に作業を進める方策を考えていきたい。データベース間のデータ交換を進めるためにもいつかは実施しなければならないことである。
- データの構造化に関しては、現在の IT の潮流は半構造化である。また、データ構築時にきちんと管理するか、構築時の精度は問わず検索時の技術で対応するかのいずれかであるが、後者が主流となりつつある。NACSIS-CAT の再構築についても適切な対応を検討してほしい。さらには、Google Books のようにテキストの全文検索への対応も今後検討する必要があるだろう。
 - 長期的な動向はその通りである。しかし一方で、テキストはまだまだオープンになっていない。短期的にはメタデータの重要性が高まっているため、まずはその整備を進めたい。

(6) 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) の活動について

NII・小陳室長より、資料 6-1 から 6-5 に基づいて説明があり、次期委員について承認された。

(報告事項)

(7) SCOAP³について

NII・吉田係長より資料 7 に基づいて報告があった。このことに係り、以下の意見交換があった。

- 未拠出機関が参加すれば不足分は解消するか？
 - 元々、求められている拠出総額と購読費の振替額には差があるため、解消はされない。
- 同様に協定書を取り交わしている高エネルギー加速器研究機構にはフェーズ 2 の情報は伝わっているか？

➤ 伝わっている。

(8) 平成 27 年度教育研修事業実施報告

NII・細川課長より資料 8 に基づき報告があった。

以 上